

(別添4)

## 【宮若市】

### 1人1台端末の利活用に係る計画

#### 1. 1人1台端末をはじめとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

学習指導要領及び中央教育審議会答申「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」において、2020年代を通じて実現を目指す学校教育を「令和の日本型学校教育」とし、ICTの活用と「個別最適な学び」と「協働的な学び」とを一体的に充実することを目指している。

本市においても、第2次宮若市総合計画後期基本計画（2023～2027）の中で、5教育・文化2学校教育の充実の中で、ICT機器の整備を図りながらデジタル社会に向けた教育活動を推進することを掲げている。

そのため、ICT機器の整備・活用の促進を図り、ICTを効果的に活用し教育活動ができるよう教職員の指導力向上を目指し、ICTを利用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現し、確かな学力の定着を図る。

#### 2. GIGA第1期の総括

令和元年度よりGIGAスクール構想が始まり、大型提示装置、教師用デジタル教科書、児童生徒用タブレット端末、学校内Wi-Fiネットワークの整備など、多岐に渡るデジタル化の推進を行ってきた。タブレット端末の整備に伴い、教育環境の急激なデジタル化をサポートする為、ICT支援員を配置し、児童生徒や教職員の技術・運用の支援を行っている。令和2年度のタブレット端末導入から4年が経過し、教職員のICTスキルも向上が見られ、授業におけるICTの活用が着実に進んでいる。課題としては、経年劣化による端末の不具合や、ネットワークの遅延などが発生しており、またICT活用に関しても教職員の差が発生している。

タブレット端末については令和7年度に機器の更新を行う。ネットワークの遅延については、令和7年度にネットワークアセスメントを実施し、改善策を検討後、改善の実施を行うよう計画している。

#### 3. 1人1台端末の利活用方策

##### (1) 1人1台端末の積極的活用

GIGA第1期で整備した1人1台端末を効果的に利活用するため、指導者用デジタル教科書、授業支援ソフト、AI型デジタルドリルソフト等を導入している。令和7年度以降はGIGAスクール運営支援センターを整備し、ICT活用や端末管理など教職員に対する支援体制を整え、児童生徒が学校および家庭学習において日常的に文房具として端末を活用することを促す。

##### (2) 個別最適・協働的な学びの充実

現在整備しているICT環境は、児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面など互いに学び合う学習環境や、ひとりひとりの特性や理解度・習熟度に合わせた問題を解く

ことが可能な AI 型デジタルドリルなど、「協働的な学び」や「個別最適な学び」の充実を図ることが可能である。ICT により把握した学習データを効果的に生かすことのできる機能や教材によって、支援の必要な児童生徒への適切な指導やよりよい授業づくりを目指している。

### (3) 学びの保障

1人1台端末を利用して、希望する不登校児童生徒に対して授業配信や、教育支援センターと学校との連携を強化した学習支援、様々な困難を抱える児童生徒の心身の状況把握や教育相談等、多様な場面で ICT の活用していく。